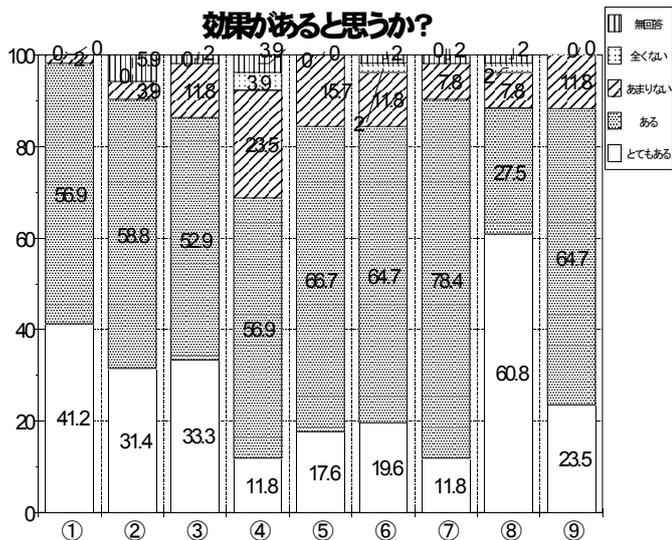


## 2 教師アンケートの集計結果

今年度の小中一貫教育に関するアンケート調査を実施し、集計した結果である。

- ・実施日：平成25年11月
- ・対象者：神原中，神原小，壺屋小の全教師対象
- ・方法：紙媒体を使った無記名方式

(1) 次の項目を実施することは、小中一貫教育を行う上で効果があると思いますか。



※アンケート項目の内容 (上記グラフの①～⑨)

- ①一貫した教育目標の作成
- ②小中一貫カリキュラム(学習系統表など)の作成
- ③小中合同研修会
- ④小学校教科担任制
- ⑤乗り入れ授業
- ⑥小中合同行事
- ⑦異学年交流
- ⑧生徒指導上の共通実践
- ⑨地域との連携



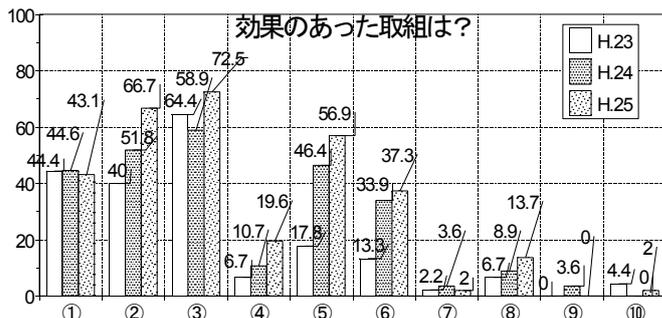
### 《考察》

(評価4 + 評価3) が90%を超える項目は、H24の1項目から3項目 (①, ②, ⑦) に増えている。⑧, ⑨についても90%に近い数値である。

評価としては、一番低い値になっているのが、「小学校教科担任制」の68.6%ではあるが、H24に比べると、23ポイント増加している。特に中学校は、その効果があると答えているのが85.2%にも上っており、学級担任制と教科担任制の違いが大きく影響しているものと考えられる。

H24と比較して、今回一番数値がアップしたのが「地域との連携」で、+26.8%となっている。

(2) 小中一貫教育の取り組みで、効果のあった取り組みはどれですか。(複数回答)



※アンケート項目の内容 (上記グラフの①～⑩)

- ①指導方法等の改善
- ②生徒指導上有効な情報の取得
- ③教職員相互の共通理解
- ④児童生徒相互の親睦
- ⑤中学校入学時の不安解消
- ⑥児童生徒理解
- ⑦自尊感情の向上
- ⑧学習意欲・学力の向上
- ⑨保護者の支援
- ⑩その他



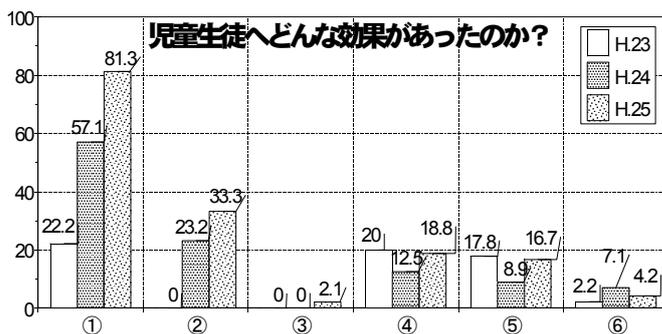
### 《考察》

一番効果があったと答えているのが、「教職員相互の共通理解」の72.5%で、小中の職員が「お互いを知る」ということにもつながっているものと考えられる。

H24と比較すると、10ポイント以上高くなったのが、「生徒指導上の有効な情報の取得」+14.9ポイント、「教職員相互の共通理解」+13.6ポイント、「中学校入学時の不安解消」+10.5ポイントである。

「児童生徒相互の親睦」も+8.9ポイントあり、特に小学校では+15.3ポイントになっている。中学校の方も+3.3ポイントではあるが、生徒の交流後の変容があまり見られないということから思ったよりもアップが小さいと思われる。

(3) 取り組みを通じて児童生徒にとって、どんな効果があったと思いますか。(複数回答)



※アンケート項目の内容（上記グラフの①～⑥）

- ① 中学入学前の安心が得られた
- ② 中学生活への夢や希望につながった
- ③ 思いやりの心が育った
- ④ いじめ・不登校の減少につながった
- ⑤ 学習意欲の向上につながった
- ⑥ その他

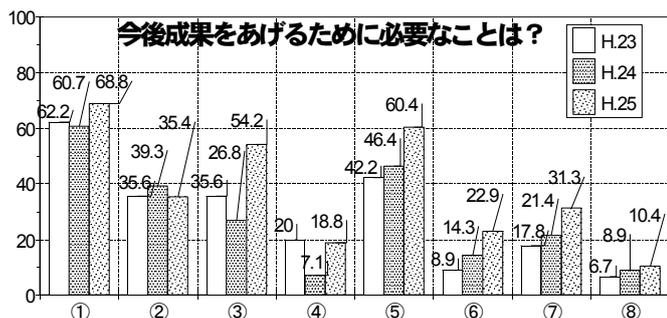
《考察》

H24に比べると、①～⑤の全ての項目において数値がアップしている。

特に、「中学入学前の安心が得られた」という項目については、H23が22.2%、H24が57.1%、H25に至っては81.3%となっており、飛躍的な向上が見られる。

「中1ギャップの解消」という視点から見ると、非常に効果があったと考えられる。

（4）今後、小中一貫教育で成果をあげるために必要なことは何だと思えますか。（複数回答）



※アンケート項目の内容（上記グラフの①～⑧）

- ① 小中連携のための時間の確保
- ② 教育課程の意図的・計画的編成
- ③ 教職員の交流
- ④ 児童生徒の交流
- ⑤ 教職員の連携意識の向上
- ⑥ 保護者・地域を巻き込んだ連携
- ⑦ 管理職のリーダーシップ
- ⑧ その他

《考察》

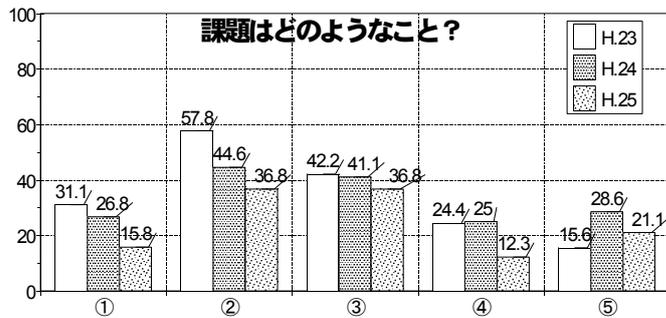
H24は小中ともに「小中連携のための時間の確保」が一番高かったが、H25の中は同じだが、小は「教職員の連携意識の向上」へと変わっている。

H24と比較して、10ポイント以上高くなったのが、「教職員の交流」+27.4ポイント、「児童生徒の交流」+11.7ポイント、「教職員の連携意識の向上」+14ポイントである。

「教職員の交流」の数値アップを見ると、研修会等を通して、やっぱり小中の職員が「お互いを知る」「仲良くする」ことが必要であるという事を再確認することができる。

また、「管理職のリーダーシップ」についても9.9ポイント増加している。

（5）小中一貫教育を行う上での課題はどのようなことだと思いますか。（複数回答）



※アンケート項目の内容（上記グラフの①～⑤）

- ① 教職員が小中連携の必要性を感じていない
- ② 連携の在り方などについてともに話し合う時間がない
- ③ 小中間で育てたい力について考え方に違いが見られる
- ④ 中学校区に複数の小学校があるため共通理解を図ることが難しい
- ⑤ その他

《考察》

項目①～④の全てにおいて、3か年で一番低い数値になっている。

特に、「教職員が小中連携の必要生を感じていない」が-11ポイント、「中学校区に複数の小学校があるため共通理解を図ることが難しい」が-12.7ポイントとなっている。

現在行っている取組が、少しずつではあるが当初の課題解決へ向けて効果があったことを表していると考えられる。

《アンケートから見た成果と課題》

(1) 成果

- ① 「中1ギャップの解消」に効果があった。
- ② 小中の職員が「お互いを知る」「仲良くする」ことが必要であることを再確認できた。

(2) 課題

- ① 今後いかにして、保護者を含めた「地域との連携」に取り組んでいくか。